

# 第10回新型コロナウイルス感染症対策特別委員会

## 【前編】



当日の録画映像は、議会ホームページ「本会議等録画中継」から視聴できます。ぜひご覧ください。



午前



午後



新型コロナウイルス感染症対策特別委員会は、新型コロナウイルス感染症に関して総合的な取り組みや対策などについて調査研究することを目的に、令和2年5月に設置された特別委員会です。

12月3日に開催した第10回委員会では、本市の感染症対策に関する現時点の課題を明らかにするため、各委員から執行部に対して質問を行いました。また、議会および市の取り組みを市民に広く周知するため議場で開催し、CNS（ケーブルテレビ）による中継も行いました。

## 委員質問(要旨)

各委員による質問をテーマ別に再構成して掲載しています。

### 1 クラスター（集団感染）の発生を受けての取り組みは—

**(質問)** クラスターの発生を受けて、人権施策の観点から、当該地域の現状および市全体の状況を問う。

**(答弁)** 本市では、これまでに4件のクラスターが発生している。1件目のクラスターは、介護福祉施設で働く介護従事者やその家族、施設利用者に対する心ない言動や差別につながる行為があったとの報告を受けている。

2件目の、9月に医療施設で発生したクラスターでは、周辺地域の住民の不安感が高まったことから、当該施設、関係自治会をはじめ、市、病院、鈴鹿保健所が対応を協議して、近隣地域へ細かく情報を発信することで不安解消に努めた。

3件目の、10月に複数の家族間で発生したクラスターは地域が特定されていないが、現在、市、保健所、関係機関が連携して対応に努めている。

4件目の、11月に市内の会食などの場面で発生したクラスターについても、3件目と同様に対応している。この事例に関しての差別や、誹謗中傷などにつながる意見、問い合わせはこれまで

に入っていない状況である。

また、市全体の状況として、クラスター発生地域とその他地域の住民の間には、感染リスクに対する意識の温度差があると認識している。市には、詳しい情報を求める声や、地域を特定しようとする問い合わせなど、スティグマ（負の烙印）につながりかねない相談や意見なども寄せられている。

対応の一つとして、8月からインターネット上の人権侵害事案に関するモニタリングを実施し、SNS上で、本市の人権課題に係る悪質な書き込みに対する早期実態把握と、拡散防止のための速やかな削除要請を行うよう取り組んでいく。

広報すずか12月5日号では、差別について考えるきっかけとなるように人権特集記事を発信している。今後は、関係機関と連携しながら、市内の事業所などに対しても啓発に取り組む。



広報すずか 12月5日号